

とちぎの求める教師像、教職員評価制度(行動規準表)及び研修目標との関係

①とちぎの求める
教師像

～自信と誇りをもって子どもたちと向き合える教師～

人間性豊かで信頼される教師

幅広い視野と確かな指導力をもった教師

教育的愛情と使命感をもった教師

優しさ、聡さ、逞しさをはぐくむことのできる教師を求めます。



②教職員
評価制度

行動規準表の「評価の着眼点」

第Ⅰ段階(～5年) 第Ⅱ段階(6年～15年) 第Ⅲ段階(16年～)

学 習 指 導

児 童・生 徒 指 導

参 画・経 営

意 欲・態 度

- 指導計画の立案・実施
- 教材研究・指導法の工夫
- 評価の工夫

- 児童生徒との信頼関係の構築
- 児童生徒への支援・指導
- 家庭・地域・関係諸機関との連携

- 校務分掌への取組
- 学級・学年経営
- 学校経営への参画
- 家庭・地域・関係諸機関との連携

- 教育的愛情・熱意
- 法令の遵守等
- 責任感・寛容性・協調性等
- 研修に対する意欲



③ステージごとの
研修目標

(次頁に掲載)

各ステージで身に付けたい資質・能力

ステージⅠ(初任者～) ステージⅡ(5年目～) ステージⅢ(10年目～) ステージⅣ(20年目～)

- ステージごとに、これから身に付けていくべき資質・能力が示されています。
- 基本研修で、全ての項目を取り扱うわけではありません。
- 目標として示された資質・能力を身に付けるために、専門研修や自主的な研修にも取り組む必要があります。



④研修内容ごとの
目標

総合教育センターにおける研修内容ごとの目標

- 講話・演習・研究協議等の前に、それぞれの目標が示されます。
- 研修の直後、「研修評価・振り返りシート」で目標に沿って自己評価します。